

# 若狭湾水中散歩

京大水産 実験所 益田 玲爾

8

## タツノオトシゴ

葉を落としたホンダワラの枝につかまっているのは、タツノオトシゴ。

その下にはシロボヤがぶらさがっている。日本の晩秋の原風景のよう構図に、海の中で出遭つてうれしくなった。一年を通して海に潜つていて、文字通り季節の移ろいを感じることがで

きる。

以前、小学生向けに水槽の展示をした折、ダン

トツで人気があったのが

このタツノオトシゴだ。

ボと餌を吸い取る様子はなかなかに愛嬌がある。

原則として「食える魚」を研究の対象にしている筆者ではあるが、小学生

れでも魚の一種だ。形も

## オスが卵育て、安産のお守りにも

諸君にウマヅラハギの肝

の旨さを力説したこと

で限界がある。少子化が進む今、ちびっ子の人

気も大切なことで、実験所

にてこの魚も飼育してみた。鰐は、動物プランクトンのアルテミアを孵化させて与えている。スポ

イトのような口でスプ

シユワルツエネッガー主

演の映画で、男が妊娠してしまった話があつたが、

魚の社会はある意味、人間より進んでいる。

この特異な生態のため

か、タツノオトシゴはし

ばしば安産のお守りとし

て使われる。また中国で

は、漢方薬の材料とされ

ているそうだ。なかなか

にあなどれない。それに

しても、こんなにおかし

くも可愛い魚がいる海の鶴で育ててみたいものすぐそばで暮らしてゆけだ、とこの奇妙な魚を見れる我々舞鶴市民は、実際にめながら想うのである。自分も子供は舞幸運だ。



ホンダワラの枝につかまるタツノオトシゴ。体長6cm・長浜、水深1m